

## メッセージアウトライン テサロニケ人への手紙 第一3:11~13 「パウロの祈り」

[11]「どうか、私たちの父なる神であり、また私たちの主イエスである方ご自身が、私たちの道を開いて、あなたがたのところに行かせてくださいますように」

パウロは現在いる所で様々な妨げを受けてテサロニケへ行くことができないが、神が道を開いてくださって何とかして行かせてくださるようにと切に祈っている。ここでは父なる神と主イエスが同一のお方として言い表されており、主イエスが父なる神と共通する神性と力を持ったお方であることがわかる。私たちの信じる聖書の神は父なる神と子なる神イエス・キリストと聖霊なる神の三位一体の神である。→ウエストミンスター小教理問答[問6と答え]参照 キリスト教の異端はこの三位一体を否定する。

教会は主イエス・キリストによって救われ、罪贖われた者の群れであり、神を父と呼ぶ神の家族である。パウロたちとテサロニケ人たちはその点において全く同一であり、主にある兄弟姉妹なのである。

[12]「また、私たちがあなたがたを愛しているように、あなたがたの互いの間の愛を、またすべての人に対する愛を増させ、満ちあふれさせてくださいますように」

ここでさらにパウロの祈りは深まる。たとい、パウロたちが今しばらくはテサロニケへ行くことができなくても、主なる神が彼らの愛を増してくださるようにと願う。

この祈りはまず第一にパウロを始めとする福音のための働き人たちがテサロニケ人たちを愛しているという事実がある。そして次にパウロたち自身がこのように実行している愛を模範として、テサロニケ教会の人たちもお互いの愛を増し、さらに教会の外へ向かって、すべての人々に対してその愛を満ちあふれさせてくださるようにと祈っている。このような愛は私たち自身の内から湧き出てくるものではなく、あくまでもその源泉は三位一体の主なる神からである。→Iヨハネ4:7~11、19 イエス・キリストによって私たちに示された神の愛は信じる者にさらに増し加えられ、外に向かって満ちあふれていく性質のものである。それは教会の内部に限定されず、すべての人へと広がっていく。

[13]「また、あなたがたの心を強め、私たちの主イエスがご自分のすべての聖徒とともに再び来られるとき、私たちの父なる神の御前で、聖く、責められるところのない者としてくださいますように」

パウロはここで、テサロニケ教会の人々が主イエス・キリストの再臨の時に対して十分な備えをするようにと祈る。

「あなたがたの心を強め」…人間の霊的、精神的活動の最も中心的な部分、全人格を統制している「心」が整えられ強められるように。

「聖く、責められるところのない」…「聖い」とは神に属するもの、神のご用のために全く分けられたものの意。これがクリスチャン本来のあるべき姿であり、この

あるべき姿に向かって生きるきよめの過程こそクリスチャンの人生である。「責められるところのない」とは単に人の目から見てそうであるというだけではなく、父なる神の御前での評価。

主イエス・キリストとともに来る「すべての聖徒」とは信仰を持ってすでに天に召されていった人々と天使たちすべてのことであろう。

このようにパウロはテサロニケの人々が主イエスの再臨の時に向かって聖い生活の中に備えをしなければならないことを教えている。そしてそれは彼らだけではなく私たちもしなければならないことである。もちろんこのように生きるのは私たち自身の力によるのではなく、神の恵みによってのみ可能になることである。それゆえにパウロは神に昼も夜も熱心に祈り続けるのである。

神はあらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方である。→Ⅱコリント9:8

パウロがテサロニケ人たちのために祈ったように、私たちも恵み豊かな神にお互いの間の愛、すべての人々に対する愛を増し加えてくださるよう、また私たちの心が強められ、主イエスの再臨の時までに恵みによって、日々、聖く責められるところのない者となれるように祈り求めていきたい。